

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和6 年 2月 1日

事業所名 一般社団法人ここえ ベルリー

保護者等数(児童数) 27

回収数 22

回答割合81%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	22 人				裏庭ができて、子どもが大満足している	
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	22				熱心に指導をしてもらっていると思う	
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	21			1		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	22					
適切な支援提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	22					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	22					
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	22					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	21			1		
	⑨	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	9	2	3	7	ストレスになるので逆になくてありがたい	
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	22					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	21	1				
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	18	2	1		中々実践できなくてもペアトレの時間でいつもモヤモヤがとれる	

	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	20	2				
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	19	3				
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	3	4	6	もっと他の保護者と話す機会があったらいいと思う	各保護者様の負担にならないように交流の機会を作っていきたいと思います。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	22					
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	22					
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	21	1				
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	22					
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	22					
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	22					
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	22				「明日はベルリー？」と聞くほど通所を楽しみにしています。	
	㉓	事業所の支援に満足しているか	22				ベルリーに通って良かったと思っています。動画をいつも楽しみにしています。こっそり様子を見られたらいいなと思いました。	

- この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果（公表）

別紙 3

公表：令和 6年 2月 1日

事業所名 一般社団法人ここえ ベルリー

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8人	0人	子どもの人数や当日の状況で部屋を分け対応をしている	個々の状況に合わせて。運動療育・個別療育で小集団を更に少数にして対応しています。
	②	職員の配置数は適切である	8	0	県の人員配置基準を大幅に超えた人員配置を行っている	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	0	年1回環境の構造化を行っている。クッション材の使用等安全面に配慮している	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	0	毎日利用後の室内の清掃、次亜塩素消毒を行っている。加湿器を設置し、湿度・室温・換気などに配慮している	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8	0	毎日のMTGとその他の必要に応じて業務改善MTGを行っている	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	施設内の見やすい場所に掲示してある。評価結果をもとに会議を開き改善に努めている	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	保護者へ配布するとともに、ネット上に公開している	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	8		今後取り入れていく方向で検討中
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	月1回の事業所内研修 県の研修に参加 外部研修参加への推奨をしている	研修参加できなかった職員に向けて、研修内容報告書を作成し職員全体の質の向上を目指す
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	アセスメントシートを使用して保護者から聞き取り児発管が作成を行っている	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	KIDS JSI-R 太田スケーリングを使用している	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	0		

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8人	0人	計画内容の把握に努め、目標達成に向けた支援をチームで行えるように共有をしている		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	個別療育は児発管が担当しているが、他は職員全員で計画している	各支援者の見立てやアイデアが活発に意見交換できるように、チーム作りをしていく	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	繰り返しなき繰り返しの目指して、日々のプログラムを工夫し、楽しく活動ができるようにしている		
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8	0	個別・運動に分けるスタイルを基本に臨機応変に対応している		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	朝MTGを行い、その日の支援内容や役割分担の確認を行っている		
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	夕方MTGを行い、振り返りや利用者様の様子で気づいたことを共有している		
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	毎日担当児の支援日誌を記入し、詳細に書くことを徹底している	記載するだけで、読み返す事なかなかできていないので、継続した支援になるように支援日誌の読み返しを意識付けていく。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	定期的にモニタリングを実施し、必要な支援がなされているか判断している		
	関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	児発管がサビ担会に出席している	
		㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	1	相談支援事業所・保育園・小学校などと連携をした支援を行っている	現状各市町村との、連携に差がある。今後訪問・連絡回数を増やし格差をなくす。
		㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	該当なし			
		㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	該当なし			
		㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	児発管が児童の通う保育所等に訪問して連携・情報共有を行っている	
		㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1	入学前に連絡協議会に参加して情報提供を行っている。事業所にも訪問をして貰い生活の様子を確認してもらっている	
		㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	聴覚障害児童の研修に参加、ST訪問のさいには助言・指導を受けている	
		㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	6	園との並行通所の利用者が多く、現在は事業所としての交流はない状態。児童館等の利用を行っている。	

	29	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	3	本庄市には子ども部会がない為定期的に出席できる会議はないが、出席依頼がある者には全て参加している	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	保護者担当の職員は、支援の様子・状況、家庭での様子をヒアリングしている	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	0	毎年全8回の講座を開いている	
保護者への説明責任	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	契約時に説明を行っている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	モニタリングの機会に保護者と面談を行い必要に応じてかかわり方のアイデアの提案や助言を行っている	希望者には心理士との面談の機会を設けている
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	5	保護者の中にも色々なご意見がある中で、保護者同士の関わりを持てる機会を増やしていく方向で検討をしている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	書面やLINE・電話など、対面でなくてもすぐに返答を出すように努めている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	月1事業所便り 隔月保護者だより 週1 Facebook 週2.3ブログ	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8	0		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	1回連絡するだけでなく別の連絡手段で再度確認するなどして予定や情報の行き違いが起きないようにしている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	6		夏祭りで近隣・関係機関を招待予定だったが、駐車場や感染症の課題がクリアできずに今年度は見送りとなった
	非常時の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	0	各マニュアル研修を行っている。感染症対策委員会や虐待保母委員会を定期的に開催。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	月1回の避難訓練 年1回の引き渡し訓練を行っている	
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0	アセスメントで服薬の状況聞き取り、職員間で共有している。	

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2	アセスメント時に保護者から聞き取り、食物除去の情報を共有して、対応をしている。	
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	随時記録し上司へ報告し、4カ月に1度会議を開いて再発防止に努めている	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	年2回虐待防止研修 年1回メンタルヘルス研修	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	0	3カ月に1度身体拘束検討会議を開催。個別支援計画にも記載し保護者へ同意を得ている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。